

国際若手技術者ワークショップ開催

留学生グループでは、100周年事業実行委員会国際部会と共同で、国際若手技術者ワークショップを土木学会全国大会（大阪府豊中市）にて9月10日～13日に開催しました。これは土木学会の創立100周年記念事業の一環です。ワークショップのタイトルを **Facing the Challenges of Our Future Society** とし、参加者が2050年の未来社会を予測し、そこでの土木技術者や自身の役割について議論しました。

ワークショップには海外からの招待者11人のほかに、国内の留学生、日本人学生、企業や研究所の技術者など、計51人が参加しました。参加者の国籍は21ヶ国にのびりました。ワークショップでは参加者を5～6名ずつの9グループに分け、初日はアイスブレイクの位置づけで、ケースメソッドを用い、東日本大震災における釜石での避難行動について、要因分析を行いました。特に若年層の避難の成功要因を、既存の問題点や取り組みをポストイットに書き込み、ポスター上でグループメンバーが並べ替えながら整理していきました。

2日目は、スキヤニングマテリアルの手法を用い、未来社会を予感させる技術や社会変化に関する数十の情報から、グループごとに未来予測を行いました。ここでは土木分野とは関係なく、情報技術、遺伝子、知能、エネルギー、気候、人口、幸福などに関係する情報から、2050年の社会を予想しました。グループ内では、様々な議論がなされ、途中で発表を行うことで情報共有もしつつ、各グループの将来予測がなされました。その後、各個人が土木技術者としての自身の役割について考え、最終的に1人1枚のポスターに纏めました。



グループディスカッションの様子



ポスターセッションの様子

3日目は、最終発表が行われました。全国大会の研究討論会の枠を用い **Open Discussion on 'Facing the Challenges of Our Future Society'** を開催し、公開でのグループ発表および議論がなされました。それぞれの発表に、多くの質問と議論がなされ、盛り上がりを見せました。また、磯部土木学会会長、上田国際センター長から開会と閉会の挨拶をそれぞれ頂き、参加者への期待とメッセージが伝えられました。また別途、1人1分の個人発表も行われました。

現在取り組んでいる業務、研究、勉学の内容からの発展ではなく、社会全体の動向から未来予測をし、そこでの課題から土木技術者の役割を考えていく手法は、参加者にとって新鮮で、特に若い技術者にとって有意義な機会となりました。



研究討論会の様子



クロージングパーティー
研究討論会の様子

夕方には、日本企業に勤める参加者から、職務の内容が紹介され、海外からの招待者や留学生が日本企業について知る機会ともなりました。クロージングパーティーでは、参加者が懇親を深めるとともに、藤野100周年事業実行委員会委員長、福本前国際センター次長からもメッセージを頂きました。

最終日は、テクニカルツアーとして、明石海峡大橋を見学し主塔

にも登り、世界最長スパンの吊橋を体感するとともに、震災資料保管庫では阪神大震災の被害状況と復旧について学びました。

4日間に渡り50名以上が参加したワークショップは、留学生グループとしてこれまでで最大のイベントとなりましたが、様々なバックグラウンドをもった参加者が、積極的に議論し、刺激し合い、交流を深め、国際若手技術者ワークショップにふさわしい内容となりました。



全体集合写真

【記：留学生グループリーダー 長井宏平】